

大学における国際環境人材養成

－「三重大ブランドの環境人材養成プログラム」を事例に－

朴惠淑（三重大）・金玟辰（三重大）

キーワード：国際環境人材、アジア・太平洋大学環境教育コンソーシアム、国際環境インターンシップ

三重大学では、40年前に三重県四日市市で発生した四日市公害から学ぶ「四日市学」を立ち上げ、学問横断的な実践環境教育を行っている。平成20年度には文部科学省教育GP質の高い大学教育推進プログラムに「三重大ブランドの環境人材養成プログラム（以下、本プログラム）」が採択され、平成22年度まで推進する。本プログラムでは、「環境資格支援教育プログラム」の充実化、「国際環境教育プログラム」の確立とその実施を行うことで、優れた環境人材を育成することを目指している。これは「三重から世界へ：地域に根ざし世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す」という三重大学の教育目標にもつながるものである。特に本プログラムにおいては国内だけに止まらず、国際的にも通用する国際環境人材を養成することを目指している。そのために、まず平成21年10月23日に三重大学において国際環境教育ワークショップを開催し、環境教育コンソーシアムの組織・運営に関する具体的な枠組みを構築した。大学・企業・行政との協働による実践的環境教育の実現のために、第1回「アジア・太平洋大学環境教育コンソーシアムの組織・運営」国際シンポジウムを開催したのである。この「アジア・太平洋大学環境教育コンソーシアム」では、8カ国33大学(中国・韓国・モンゴル・日本・タイ・インドネシア・オーストラリア・アメリカ)の研究者が参加し、国際的視野に立った環境教育プログラムの開発および交流を行った。さらに、外国企業や国連関係の国際機関での「国際環境インターンシップ」を三重大学は実施している。例えば、2009年度には国連気候変動枠組条約第15回締約国会議(COP15; 12月7日-18日、デンマーク・コペンハーゲン)に国際環境インターンシップの学生4名を派遣した。この国際環境インターンシップの学生らは、エール大学とコペンハーゲン大学が共同開催した「グリーン・キャンパス国際環境ワークショップ」(アメリカ、イギリス、デンマーク、トルコ、中国、日本を含む世界の14大学が参加)において、三重大学の3R活動やキャンパス・パーク活動、近隣小学校での環境教育、町屋海岸での清掃活動等に関するポスター発表を行った。学生らはこの「グリーン・キャンパス国際環境ワークショップ」へ参加することにより、世界の諸大学生とともに現在と未来をつなぐ環境への取り組みについての討論を行った。学生らはこのような国際環境協力のあり方について意見交換を行う過程を通じて、地域や地球環境を守っていくことの意味を知るようになる。2010年度の「国際環境インターンシップ」は、今年10月に愛知・名古屋にて開催される国連生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)への参加を予定している。このような国際的視野に立った環境会議を体験したことにより、学生は地域の若手リーダーだけでなく、世界のリーダーとしての今後の役割が期待される。